

■大使からの活動報告:2013年12月後半から2014年1月上旬

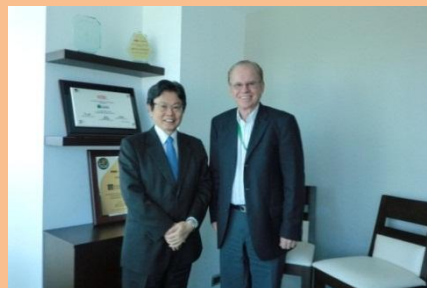
2014年1月11日

在グアテマラ日本大使(川原)

12月に入り、グアテマラ市内のあちこちで、夜に花火が上がっておりました。12月24日夜は、市内各所で散発的に続いた花火打ち上げは、25日午前0時に最高潮となり、おびただしい数の花火が一斉に星空に打ち上げられておりました。この花火打ち上げは、毎年のクリスマス恒例行事になっているのだそうです。九州、門司でも、年越しの花火大会が今年も盛大に行われたと聞いておりますので、日本でも共通したお祝いをするところがあります。

◆カールシュミット IOC 委員訪問(12月20日)

首都にある事務所にカールシュミットさんをお訪ねして、お話を伺いました。2013年9月にブエノスアイレスで開催されたIOC総会の際、高円宮妃、岸田外務大臣、水野東京オリンピック招致委員会副会長などとお会いをされた時のことなど、携帯写真もお見せ頂きながら、楽しく語って頂きました。日本チームは、総会会場でとても素晴らしいプレゼンテーションを行っておられた、2020年オリンピック・パラリンピックが日本開催に決まり、大変に喜んでいる、今後、オリンピックが成功裏に準備が進められるものと思っている、とのお話でした。なお、アルスー政権時、カールシュミットさんは、同大統領に指名されて、キューバとの外交関係改善のため、大使として2年間(98年~2000年)派遣されたことがあり、現在は、米系外資企業(デュボン)関連のビジネスの傍らギリシャ名誉領事を兼務されています。



◆ASIES 訪問(12月19日)



1979年以来活動をしているグアテマラのシンクタンクです。主要国や国連機関から資金提供を受けて、民主政治・司法、公共政策、地方における零細企業ファイナンス事業など、広範な領域で、研究や活動を実施しており、研究者が40名程度います。同センター専務理事によれば、当国政府の税徴レベルは、中南米の平均レベルより低く11%程度、富裕層が国民所得全体に占める割合がかなり大きい、政権が4年毎に交代することから、中長期の計画や政策の実施は困難であること、一次製品の輸出依存度が大きく、改善していく必要があるといった見方をお聞きすることができました。また、5年前に情報公開法が議会を通過し、それ以前は出来なかった政府部内の情報をメディアが情報提供を求めることができるようになり、政治の透明性が向上したとのことでした。

◆橋本 謙 JICA シャーガス病対策広域アドバイザーとの懇談

12月16日、橋本謙中米地域シャーガス病対策広域アドバイザー(左写真:右端からお二人目)と懇談する機会がありました。シャーガス病は、中米地域で推定170万人の感染者がいたのですが、2000年以降、グアテマラを手始めに、JICA 専門家・協力隊員によって開始された対策プロジェクトが、中米各国で着実に効果を上げて、今では、発生率が劇的に低下し、WHO 地域機構から中断の効果があったと認定されました。こうした日本の協力により、各国保健省や地域住民との地道な対策を実施した中で、成功例(グッドプラクティス)をまとめた貴重な資料を、今年3月を目処に作成し、保健省に手交予定とのことでした。同資料の完成が大いに期待されます。



目)と懇談する機会がありました。シャーガス病は、中米地域で推定170万人の感染者がいたのですが、2000年以降、グアテマラを手始めに、JICA 専門家・協力隊員によって開始された対策プロジェクトが、中米各国で着実に効果を上げて、今では、発生率が劇的に低下し、WHO 地域機構から中断の効果があったと認定されました。

◆駐日グアテマラ大使御夫妻と懇談

12月27日、グアテマラに帰国中のエスコベド大使夫妻(下写真:左端のお二方)、94年から



97年まで駐日大使をされておられたダビンソン大使(右端から3人目)夫妻をお招きして懇談する機会がありました。エスコベド大使は、駐日6年になるとのことですが、兄弟で外交官として御活躍をされておられます。本国帰国中も当国関係者と精力的にコンタクトをされておられ、2014年も日本との関係を緊密にしたいと張り切っておられました。

ダビンソン大使ご夫妻(右端から2人目及び3人目)は、4年間、日本に大使として勤務をされておられ、97年の常陸宮同妃両殿下がグアテマラを訪問された時の大使であり、常陸宮同妃両殿下が大変にグアテマラを気に入って頂き、妃殿下はグアテマラの伝統的織物で出来た洋服をお召しになっておられたエピソードなどの思い出をお聞きました。同大使は、20代後半に、当国ジュネーブ代表部に勤務されて、GATT や UNCTAD 関係で、大使の懐刀として大活躍をされた様子です。開発経済、国際関係論で学位を取られ、米国ジョージタウン大学や当地大学などで教えておられたこともあります。現在は、グアテマラの国際関係の歴史の変遷や中米におけるグローバリゼーションに関する著作活動に専念されておられます。ダビンソン大使夫人は、今年夏、首都のホテルで「生け花」展示活動をされたと同いました。

◆日系企業訪問(SM Cyclo)

北米・南米には住友重機の減速機生産拠点多くあります。昨年8月、中米地域で初めての同社組立工場(SM Cyclo Guatemala)が、グアテマラ市から南約30キロにあるビジャロ・ヌエバ市工業団地内で操業を開始しており、1月8日に同工場を訪問致しました。



同社組立工場の広さは2千平米。同工場から 100 キロ余り南下した太平洋岸の港に陸揚げされた部品を同工場まで輸送し、いろいろなサイズの減速機の組立て及び補修を行っています。同社製品は、グアテマラ及び中米地域で操業しているサトウキビの砂糖精製工場、食品工場、また鉱山での原石運搬作業などに利用されています。

今後、中米・カリブ諸国の経済成長に伴って製品の販売市場が広がるの見通しの下、SM Cyclo が、グアテマラへ進出した由。同工業団地内は、治安が良く、電力、水が安定的に供給されているとの話をスタッフの方から、お伺いしました。



中米の代表的企業（セルベセリア・セントロ・アメリカ）工場視察

1月9日、グアテマラ及び中米で人気の高いビール（Gallo）の生産工場を視察しました。グアテマラ市内に環境に配慮した大変に近代的な生産工場があります。同工場



内で最初に目についたのは、大麦、コーンスターチなどの原材料貯蔵のため巨大なサイロが林立しているところでした。ビール生産工場は、グアテマラ国内以外に中米3カ国にあり、米国、メキシコ、フランス、アジアに輸出

しています。また、同工場は、各種ソフトドリンク、飲料水の生産も同時に行っています。傘下企業である Alimentas SA 社は、国民的な栄養食品企業であり、また、スナックなど多品種を生産、また、不動産事業にも大きく手を広げて、中米地域で活躍しており、大変に注目される代表的企業です。

マリアノとラファエルというカステージョ兄弟が、同ビール会社の創設者であり、その後のカステージョ・グループ企業の中核企業です。1886年にビール生産を開始。現在は、同工場で1500人の従業員が雇用されており、カステージョ企業グループ全体では、10万人近い規模にもなるそうです。



ビール生産に大事な水は、近くから地下水を引いてきています。主要原料の大麦・コーンスターチなどは米国等から輸入し、各生産工程はコンピュータ管理されています。工場敷地内の地下パイプを通じて各工程がつながっていました。昔は、4ヶ月かけてビールを製造していたものが、現在は、4週

間で熟成されたビールが出来上がるようになったとのこと。同工場のビール生産量は、

季節による需要変動があり、12月と3、4月の時期が生産ピークと伺いました。稼働中の缶ビール生産ライン（左側の写真）だけでも、1時間に8万個を量産、年間3億リットルの生産規模です。また、同社は、社会貢献活動として、全国的に小学校施設充実や児童の栄養改善活動に取り組んでおり、当国での日本の草の根安全保障プロジェクト実施の際の良き協力パートナーでもあります。

◆ISTMO 大学学長との懇談



1月10日、グアテマラ市内中心部にあるイツモ大学の学長室を訪ね、お話を伺いました。マニエル・ペレス学長（左写真の左端の方）は、化学者出身ですが、80年代後半から15年間、その数学的才能を買われて当国銀行業界で御活躍されていた異色の経歴をお持ちの方です。

この大学は、16年前（1997年）に私立大学として創設され、現在、6学部2千名の学部・院生がいます。建築学部では、昨年、日本の大学教員との交流があり、その後、学部卒業学生が日本で建築関係の仕事に従事していることや、今後、当国でニーズの大きい工学部の強化を目指していること、経済・国際ビジネス関係学部卒業生は、世界25カ国から人材需要があること、法学部学生のレベルが高く、中米地域で最優秀の法学部生徒10名のうちの2名に選ばれていること、また、コミュニケーション学部卒業生は、当国のメディア、ニュース記者などとして活躍していることを伺いました。

グアテマラ市郊外に建設中の新キャンパスは、環境にやさしく、エネルギー効率の高い大学づくりをめざしており、建設コストは2億ドルで、キャンパス全体設計は、日系米国人で景観デザイン・都市・庭園設計家として著名なササキ・ヒデオさんに依頼されたと伺いました。

海外大学との学生交流に力を入れておられ、アジアでは、韓国や台湾の大学と交流があり、今後、日本の大学とも学生や教員交流を進めたいとの希望を述べておられました。

当方より、今年、来年は日本とグアテマラにとって重要な年であり、今年後半には日本と中米諸国とのビジネス・フォーラムがあり、グアテマラに関係国の経済界人が参集すること、2015年は日本と中米交流年事業を予定しており、当国大学と関連事業連携の可能性を考えたい。また、国際ビジネス学部のホスピタリティー産業学科には大型キッチン施設があるので、昨年、和食がユネスコ無形世界文化遺産になったことから、日本食紹介（学長から大いに関心がありますとの御発言あり）の可能性を検討したい、と申し上げました。（了）